

子どもの読書活動を 豊かにするために



～ 読書ボランティアのみなさまへ ～

平成21年3月

岡山県子ども読書活動推進会議

岡山県教育委員会

はじめに

岡山県では、平成20年3月に「第2次岡山県子ども読書活動推進計画～おかやまどどん読書プラン～」を策定し、平成20年度から実施しています。その中で、官民協働（パートナーシップ）による子ども読書活動推進を柱とし、公共図書館、学校など行政関係の機関はもちろん、保護者、子どもの読書にかかわるボランティア・NPO、企業等とも連携しながら、県民総参加のもと、子どもがたくさんの良い本と出会える環境づくりに取り組むこととしています。

この小冊子は、この計画に基づき、読書ボランティア活動をされている方、これから始めようと思っている方に役立てていただくために、岡山県子ども読書活動推進会議が中心となって作成しました。

I 読書ボランティア活動の基礎



(1) 何のための活動であるかを理解しておきましょう。

「子どもとの楽しいひととき」をもつことは大切ですが、それだけでは今の子どもに必要な「読書への橋渡し」にはなりません。読書ボランティアは、子どもに本の楽しさを伝えつつ、子どもが読書を通して「生きる力」を身に付けていくことができるように支援することが重要です。

(2) 子どもの読書について理解しておきましょう。

何でもいいから多く読むのではなく、数は少なくても内容の良いものを、想像力や思考力を働かせながらゆっくり読んだり、繰り返して読んだりすることが、子どもにとって力になる読書であると考えます。

(3) 子どもの発達について理解しておきましょう。

子どもは、生活経験により興味や関心、感じ方などが異なります。また、生まれてから、保育所・幼稚園の時期、小学生の時期、そして中・高校生 の時期へと発達の段階を経て成長していきます。読書ボランティアのかかわり方も子どもの成長や現状に応じて変わってきます。

※ 第2次岡山県子ども読書活動推進計画の3ページの「子ども読書活動推進の意義」を参照してください。

(4) 本の選び方について

子どもの前で本を読む場合は、子どもの成長や現状に適した本で、子どもに単なる楽しみだけでなく、心からの満足や喜びを与えられる本を選ぶことが大切です。そのために、まずは本を幅広く読み、子どもの本についての知識を豊富にしていくことが求められます。また、研修会に参加して、本についての理解を深めたり、視野を広げたりすることも必要です。

(5) 活動の場や学ぶ場の見付け方について

ア 地域の図書館で相談しましょう。

学ぶ場がほしい、もっと仲間がほしい、活動の場を広げたいと思っておられる方は、まずは、地域の図書館の司書に相談しましょう。

イ 読書ボランティア団体や、子ども読書活動推進ネットワークに参加しましょう。

読書ボランティアを始めようとする場合、経験豊富な先輩ボランティアと一緒に研修したり、アドバイスをもらったりしながら、経験を積んでいくことが大切です。現在、岡山県には約220の読書ボランティア団体があり、また、読書ボランティア団体同士の子ども読書活動推進ネットワークができていところもあります。読書ボランティアに長年取り組まれている方であっても、よりよい活動を続けるためには、読書ボランティア団体に所属したり、ネットワークに参加したりして、研修を深め、力量を高めていくことが大切です。

ウ 図書館などの研修に参加しましょう。

市町村の図書館で読み聞かせの研修や講座が実施されていることも多いので、まず、問い合わせてみましょう。地域の読書ボランティアの団体や文庫についての情報も得ることができます。

※ 県立図書館では、読み聞かせボランティアとして活動するために必要な基礎的知識・技能の習得を図る目的で、養成講座を開催しています。ただし、読み聞かせボランティアとしての登録が必要です。

(6) 保育所・幼稚園・学校での取組について

学校・園での活動の際には、必ず事前に先生方や学校司書等としっかり話し合い、子どもや本について、互いに理解し合うようにしましょう。



また、事後に反省会をもち、記録を蓄積していくことも大切です。読書ボランティアは、学校・園の教育方針を尊重し、支援していくように心がけることが大切です。

(7) 活動する上で、気を付けたいこと

ア 子どものプライバシーを守りましょう。

様々な活動において知り得た子どものプライバシーは、しっかり守りましょう。子どもが不安を抱くことがないようにすることが大切です。

イ 著作権を守りましょう。

著書をコピーしたり、絵本を拡大して大型絵本を作成したりする際、著作権を侵害しないように留意する必要があります。著作物利用許可申請などにより、許可を受けることが必要な場合もあります。著作権について日ごろから研修することが大切です。



2 読書ボランティア活動の発展

(1) 研修のもち方を工夫しましょう。

読書ボランティアとしての力量を高めていくためには、次のような研修の工夫もあります。

ア 同じ地域で活動する読書ボランティア、図書館職員、学校関係者等と一緒に講演などを聞くことができれば、共通理解の上で、その後の活動を行うことができます。

イ 読書ボランティア、図書館職員、教員が、絵本の読み聞かせとストーリーテリングをそれぞれ受けもつなどして、共同でお話会を実施し、その後、反省会をもって記録を残すことを積み重ねれば、互いの活動の質を高めていくことができます。さらに、その中で生まれた課題について研修を深めれば、より効果的であると考えます。

ウ 研修の講師については、講演内容に応じた方を紹介できるように相談を受け付けています。

相談窓口： 岡山県教育庁生涯学習課 企画推進班

(2) 読書ボランティア団体同士のネットワークをつくりましょう。

岡山県では、子ども読書活動にかかわるボランティア団体などのネットワークの構築を進めています。読書ボランティアや図書館職員、学校関係者、行政関係者等がネットワークをつくることにより、優れた実践やそれぞれの課題等について情報交換することができ、活動の輪が広がります。

(3) 受け入れ側と読書ボランティア側のコーディネートが大切です。

事前に学校・園などの受け入れ側と、読書ボランティア側でしっかり話し合い、ルールづくりをしておくことが大切ですが、その際、どちらにも窓口となる調整役（コーディネーター）がいると、互いの要望などをスムーズに伝え合うことができます。

学校・園などでは、校・園長や教頭等の管理職や司書教諭、学校司書、担任等がコーディネーターとなって調整をしています。また、地域の図書館職員がコーディネートをしているところもあります。

読書ボランティア団体同士のネットワークの例

その1 「広がれ子ども読書活動」みまさかの会



「広がれ子ども読書活動」みまさかの会は、岡山県が実施した「子ども読書活動ネットワーク構築事業」や、「地域で進めるどろんどろん読書実践プログラム事業」等の活動を通して、美作地域の読書活動グループがネットワークをつくり、平成20年に結成されたものです。地域の図書館と連携した取組を行っています。

その2 「ドリームブックネット総社」

ドリームブックネット総社は、総社市内で読み聞かせをしている19団体のネットワークの会として、平成18年4月に発足しました。このネットワークは、総社市からの要請を受けて、「乳幼児親子対象のお話会」を、毎月1回、各団体もち回りで行っています。市立図書館は、会員の技術アップのための講座や、研修会等の情報提供をするなど互いに連携をしています。また、新入会員の確保のため、市立図書館が読書ボランティア養成講座を開催したり、会員が、お話会の会場で、子育て中の親に対して入会の呼びかけを行ったりしています。

3 読書ボランティアの主な活動

(1) 絵本の読み聞かせ

図書館、公民館、児童館、保育所、幼稚園等では、読書ボランティアの協力によって絵本の読み聞かせがよく行われています。小学校でも、ボランティアによる絵本の読み聞かせが行われることが多いですが、絵本から物語など様々な分野やジャンルの本へと興味・関心が向いていくように配慮していくことが望ましいでしょう。

(2) ストーリーテリング

昔話などのお話を覚えて語るストーリーテリングは、子どもが絵に頼らずに物語を理解する力を養うのに有効です。ただし、子どもの前で語れるようになるためにはかなりの準備が必要です。

(3) 本の紹介

あるテーマにより複数の本を選び、それらの本を関連付けて紹介するブックトークは、図書館や小・中学校等で行われています。本についての広い知識と、ていねいな準備が必要です。

また、本を1冊だけ取り上げ、おおまかに紹介してから想像力の働きやすい箇所を一部朗読するという方法は、限られた時間を有効に活用できるため、読書ボランティア活動としても実行しやすいでしょう。

(4) 本の朗読

子どもにとって、物語などを読んでもらって聞くことは、想像力や思考力を働かせながらお話についていくことを意味します。難点は、長い物語を読むにはかなりの時間がかかるので、継続的に時間が使えない読書ボランティア活動では実行しにくいことです。しかしこれは、小学生にはとりわけ必要な支援なので、小学校などで、担任の先生、学校司書、読書ボランティア等が協力して、継続的な朗読が行えるように工夫しましょう。



(5) 本の読み方、選び方のアドバイス

子どもは、本をどう選べばよいかかわからず、困っている場合がよくあります。そんなとき、一人ひとりの興味・関心に添いながら内容の良い本を勧めたり、読み方や選び方のコツを伝授したりする大人の存在も重要です。

(6) 図書の整理・整頓、修理等の支援

学校図書館や図書コーナーの運営は教職員が行うことが望ましいのですが、図書の整理・整頓、本の修理、掲示物の整備等の支援が必要な場合があります。

(7) 図書整備のための支援

学校、園、児童館等の限られた予算では、本をそろえることが難しい場合があります。PTAとの協力により、バザーなどで資金を集めたり、助成金などが得られるように働きかけたりすることも考えられます。

※ 読書ボランティアに関連した活動

幼い子どもへの読み聞かせの導入などでは、わらべうた遊び、エプロンシアター、パネルシアター、ペープサート等がよく行われます。しかし、それだけにかたよると子どもの読書活動の支援に結びつかないおそれがあるので、十分配慮することが必要です。

また、ブックスタートの際に、絵本の読み聞かせなどの支援を行っている読書ボランティアもあります。



(1) 参考資料

- ★『絵本のあるくらし』 プーさん文庫／編（吉備人出版）
- ★『えほんのせかい こどものせかい』 松岡享子／著（日本エディタースクール出版部）
- ★『幼い子の文学』 瀬田貞二／著（中央公論社）
- ★『お話会のプログラム』 佐藤涼子／著（編書房）
- ★『読書ボランティア活動ガイドー どうする？スキルアップ どうなる？これからのボランティア』 広瀬恒子／著（一声社）
- ★『読み聞かせボランティア入門』 波木井やよい／編（国土社）
- ★『読む力は生きる力』『物語が生きる力を育てる』 脇明子／著（岩波書店）

(2) 困ったときに相談できる問い合わせ先等

★ 県内の子ども読書に関する情報

- 第2次岡山県子ども読書活動推進計画
- 読書ボランティア団体情報
- 子ども読書活動推進ネットワーク情報
- 岡山県の子ども読書活動に関する事業

→ [岡山県の子ども読書活動推進の専用ホームページへ](#)（下記参照）

★ 著作権についての相談・問い合わせ先

- 社団法人 著作権情報センター（CRIC）
TEL 03-5353-6921
<http://www.cric.or.jp/index.html>
- 児童書四者懇談会作成 手引き
「お話会・読み聞かせ団体等による著作物の利用について」
<http://www.jbpa.or.jp/ohanasikai-tebiki.htm>

★ 子どもの本について・県立図書館の研修について

岡山県立図書館サービス第一課 児童資料班 TEL 086-224-1288

★ この小冊子に関すること・講師の情報について

岡山県教育庁生涯学習課 企画推進班 TEL 086-226-7596

この小冊子は、研修会などでお使いいただくために、[岡山県の子ども読書活動推進の専用ホームページ](#)からダウンロードしていただけます。

インターネットで

として検索するか、下記のアドレスを指定してください。

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/syogai/dokusho/index.html>



岡山県立図書館児童資料部門マスコット ヨムヨム